MEMBERS FEATURE

農業・物流用の資材を開発 タイムリーな要望に応え成長

三洋は農業用ビニールハウスや業務用保冷バッグなどを製造販売する。顧客のタイムリーな要望を丁寧にくみ取り、製品開発に生かす。保冷バッグは、CO_2の排出量を抑える密閉度の高さが注目されている。コロナワクチン接種会場で使われる便利なパーティションも開発した。（編集部）

売り上げの約6割を占める施設園芸農業用製品の例。農業施設も、オーダーメードで農場に合った製品に仕立てる

山形県の三洋は、プラスチックや鉄を使った農業用資材、物流容器などを開発・製造・販売する。売り上げの約6割を占めるのは農業用のパイプハウスや鉄骨ハウス。同社は、溶着や裁断、曲げ、縫製などの加工技術を持つため、設置場所の環境など顧客のニーズに合わせてオーダーメードできることが人気の理由だという。

「もともとはJA（農業協同組合）を通して県内の農家に販売していたが、近年では関東などで、農業分野に新たに進出する大手企業の需要が急増している」と石田伸社長は説明する。

また、農業分野では米を運ぶための穀物搬送袋も製造。ポリプロピレン製と無毒配合の塩ビ製があり、手で支えなくても立つ自立式で、かつ折り畳める。農業機械の普及とともに需要が拡大した。「強度が高く、どんなに強い風が吹いても倒れない。使う人たちの目線を商品に生かすことで喜ばれている。今後、食糧危機が来ることも予想される。農業は国の生命線。日本の農業と農家の役に立ちたい」（石田社長）。

もう1つの柱は、保冷ボックス・保冷バッグなど保冷機能付きの物流容器だ。同社の保冷ボックスはアルミ蒸着シートを使い、独自の縫製技術で密閉度を高めているため、保冷効果が高いという。「ドライアイスが少なく済むため、コストメリットがある。昨今では、環境保全意識が高く、コスト削減以上にドライアイスから出るCO_2の排出量を抑えたいと考える企業からの受注が増えている」と石田社長は話す。同社の保冷容器は、新型コロナ用ワクチンの配送にも活用されている。

顧客の困り事を製品化

決してハイテクではない分野で着実に成長してきた三洋だが、そこには「ニーズをくみ取る力がある」と石田社長は言う。同社では、90人の社員のうち約半数が営業担当であり、他社以上の顧客訪問数と、絶え間ない社内研修でその強みを発揮している。

「営業の仕事は、物を売ってくるのではなく、困り事を聞いてくることと伝えている。顧客訪問前にはロールプレイングをして、相手の本音を聞き出すトレーニングをする。研修はあらかじめ年間スケジュールに組み込んでおり、社内に進捗を掲示する。うまくできた人は表彰する」（石田社長）

さらに、毎朝の掃除などにもトレーニング要素を組み込んでいるという。「床掃除なら、30cm四方を徹底的に磨いて違いを比較する。窓を拭くときも、正面からだけでなく、下から眺めて違う汚れに気づいてもらうといった、見方を変えて気づく訓練をしている」と石田社長は話す。

こうして三洋では、顧客のタイムリーなニーズを丁寧に敏感に取り入れながら、毎年、新商品を開発する。今期は避難所やワクチン接種所などで使用するパーティションも開発し、自治体からの引き合いも多いという。

そもそも三洋は、1968年に石田社長の父が設立した。ビニール袋の加工販売からスタートし、県内の製造業からの依頼で機械のカバーを大量に作っていたが、その会社が倒産、多くの売り上げを失った。そこで目をつけたのが、米を入れるもみ袋だった。軌道に乗ったものの、冷夏に見舞われた年に半分以上が売れ残り、再び大きな危機に直面する。先代は「1つの商品に頼っていてはリスクが大きい」と考え、そこからビニールハウスや保冷ボックスなどを手がけるようになった。

石田社長は大学を卒業後、東京の企業で働き、20代で三洋に入社した。「父は苦しい姿を見せない人だった。社長業は楽しいと思え、自然と後を継ぎたいと考えた」と振り返る。一般社員として製造現場で働いた後、部長を経て会社の40期を機に社長に就任した。

今後は、「施設園芸農業の事業をさらに充実させたい。特定建設、施工管理などの分野も請け負えるように、いろいろな会社と連携したい。農業の分野で頼られる会社になることが目標」と石田社長。中国製の安価な製品が市場に増えているが、「品質では負けない自信がある。生産性をさらに高めて、海外の工場に負けない国内工場になる」と意気込みを語る。

自社工場で、パイプの切断や曲げ、生地の縫製（写真）など各種加工ができる

山形県 三川町

三洋

会社概要●株式会社三洋:1968年設立。農業資材、包装資材、物流容器などの開発・製造・販売。売上高:35億円。従業員数:90人。本社:山形県東田川郡三川町大字横山字大正27　TEL:0235-66-3685　WEB https://www.sanyo-m.co.jp/

会員経営者へのメッセージ!!

若くて元気のある会社と連携したい

東京のベンチャー企業に営業をお願いして、農業分野を伸ばしています。このような連携をどんどん広げていきたいと考えています。

トップの思い

保冷バッグで海外に進出したい

三洋　代表取締役
石田 伸 氏

いしだ・しん　1961年、山形県生まれ。大学卒業後、東京のアパレル会社勤務を経て三洋に入社。創業者である父の後を継ぎ、2007年から現職

当社では毎年、経営理念と経営方針を1冊のノートにまとめています。ここには、社内研修のスケジュールもすべて明記してあります。このノートを全社員に共有し、経営の指針としており、私自身も何か悩んだときは、必ずこのノートを開くようにしています。以前はすべて私が作っていましたが、最近では社員たちにも作ってもらうようにしています。

当社の柱は、ビニールハウスなどの農業用資材と、保冷ボックスなどの物流用資材です。農業関連の事業は、「日本の農業を守るために、当社がやらなければならない」という使命感を強く持っています。一方、保冷ボックスは物流業界での可能性が大きく、私にとってはワクワクする仕事で、携わっていてとても楽しい。今はコロナ禍で難しいですが、落ち着いたら海外にも進出したいと考えています。世界各国で自分たちの保冷バッグを使ってもらえたらすごくうれしいですね。いずれ必ず挑戦します。（談）

（写真提供：三洋）